

芝生用除草剤

パワーフォワード[®] SC

製品規格：500ml×2本

® (株) 理研グリーン 登録商標

芝生用除草剤

農林水産省登録
第24619号

パワーフォワード[®] SC

安定した効果のオールラウンダー

POWER FORWARD

メヒシバにスズメノカタビラ、
やっかいな相手ほど腕がなる。

適用雑草及び使用方法

(2022年10月末現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		使用方法	総使用回数*
			薬量	希釈水量		
日本芝	一年生イネ科雑草	雑草発生前(芝生育期)	75~150 ml/10a	200~300 l/10a	全面土壌散布	2回以内

*本剤およびオキサジクロメホンを含む農薬の総使用回数の制限を示す

有効成分と性状

種類名	オキサジクロメホン水和剤
有効成分	オキサジクロメホン…30.0% 3-[1-(3,5-ジクロロフェニル)-1-メチルエチル]-3,4-ジヒドロ-6-メチル-5-フェニル-2H-1,3-オキサジン-4-オン
	水、界面活性剤等……70.0%
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体

安全性(製剤)

人畜毒性(急性)普通物*	経口	ラット(♂♀)	LD ₅₀ >5,000mg/kg
	経皮	ラット(♂♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg
	刺激性	ウサギ	皮膚 刺激性なし 眼 刺激性なし
	感受性	モルモット	軽度な感受性
水産動植物に対する影響	コイ		LC ₅₀ >1,000mg/L (96hr)
	オオミジンコ	EC ₅₀	866mg/L (48hr)
	藻類	ErC ₅₀	170mg/L (0-72hr)

*普通物(毒物・劇物に該当しないものを指す)

効果・薬害等の注意事項

- 使用に際してはよく振ってください(分離)。
- 一年生イネ科雑草の発生前に有効なので、時期を失しないように均一に散布してください。
- 本剤は広葉雑草には効果が劣るので、広葉雑草の優占する芝生では、これに有効な剤との組合せで使用してください。
- 十分に活着した日本芝に使用してください。
- 寒冷地型芝生には薬害を生じるので使用しないでください。
- 使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

安全使用上の注意事項

- 散布の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を換えてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 公園などに使用する場合、散布区域に縄囲いや立札を立て、散布中及び散布後(最小限その当日)に関係者以外は立ち入らせないでください。小児、人畜等に留意してください。
- 漏出時は保護具を着用し直接触れないように注意して拭き取り回収してください。
- 移送取り扱いは、ていねいに行ってください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ってください。空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 火災時は、適切な保護具を着用し、消火剤等で消火に努めてください。

- ラベルをよく読む。● 記載以外には使用しない。● 小児の手の届く所には置かない。
- 空容器は圃場などに放置せず適切に処理する。● 直射日光を避け、食品と区別して低温な場所に密栓して保管。

製造販売元 株式会社 理研グリーン

〒110-8520 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 8F
TEL.03(6802)8571 FAX.03(6802)8577 http://www.rikengreen.co.jp

札幌駐在 TEL・FAX：仙台支店にて受付
仙台支店 TEL.022(222)9599 FAX.022(267)6505
東京支店 TEL.03(6802)8943 FAX.03(6802)8953
静岡支店 TEL.054(283)0691 FAX.054(291)4261

名古屋支店 TEL.052(218)3060 FAX.052(218)3061
大阪支店 TEL.06(6781)1691 FAX.06(6871)1811
福岡駐在 TEL・FAX：大阪支店にて受付

(株)理研グリーン・パートナーショップ

製品規格：500ml×2本

® (株) 理研グリーン 登録商標

製造販売元 株式会社 理研グリーン

パワーフォワード[®] SC

安定した除草効果と使いやすさ

特長

- 1 発生前のスズメノカタビラ、メヒシバなど一年生イネ科雑草に卓効を示し、長期残効性も有する土壌処理型の除草剤です。
- 2 土壌吸着が極めて高いため、土壌中での移動が少なく、安定した処理層を形成します。
- 3 日本芝内の雑草に対し、春と秋に使用できます。
- 4 樹木の周辺で安心して使用できる薬剤です。

殺草スペクトラム表

対象雑草	薬量 (mL/m ²)	
	0.075	0.15
スズメノカタビラ	●	●
メヒシバ	●	●
アキメヒシバ	●	●
エノコログサ	●	●
オヒシバ	●	●

■実施場所/（株）理研グリーン グリーン研究所内温室
社内試験データより抜粋
※いずれも雑草発生前処理

除草効果：無処理区に対する雑草量を記号で表記

- (0%)
- ◎ (1～5%)
- (6～10%)
- (11～30%)
- △ (31～50%)
- × (51%以上)

ノシバに対する安全性

実施場所	薬量 (mL/m ²)		散布日	最終調査
	0.075	0.15		
静岡県内研究圃場 ^{*1}	影響なし	影響なし	2021年 9月 13日	2022年 3月 11日
	影響なし	影響なし	2021年 10月 15日	
	影響なし	影響なし	2021年 11月 15日	
	影響なし	影響なし	2022年 3月 17日	
	影響なし	影響なし	2022年 4月 28日	
静岡県内ゴルフ場	影響なし	影響なし	2021年 9月 10日	2022年 3月 16日
	影響なし	影響なし	2021年 10月 22日	

散布方法/加圧式噴霧器にて散布
散布水量200mL/m²

草種/ノシバ

調査方法/目視による影響の調査

試験結果/調査期間においてノシバに対する被害は認められなかった。

備考/^{*1}（株）理研グリーン グリーン研究所
ノシバ圃場（フェアウェイ様管理区）

連用処理時のコウライシバに対する安全性

薬量 (mL/m ²)	散布日 (3回連用処理)	調査日	影響の有無
0.2 ^{*1}	1998年 10月 9日	1999年 11月 26日 (休眠前)	なし
	1999年 4月 26日		
	1999年 9月 20日	2000年 4月 18日 (翌春萌芽時)	なし

実施機関/日本植物調節剤研究協会研究所

実施場所/茨城県内圃場

散布水量/250mL/m²

草種/コウライシバ

調査方法/目視による影響の調査

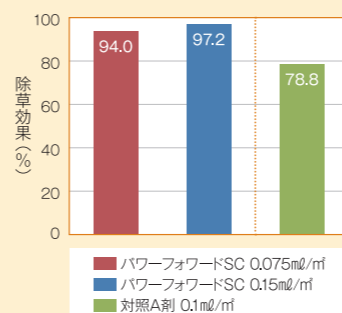
試験結果/連用処理によるコウライシバに対する被害は認められなかった。翌春の萌芽に対する影響も認められなかった。

備考/^{*1} 登録薬量は0.075～0.15mL/m²

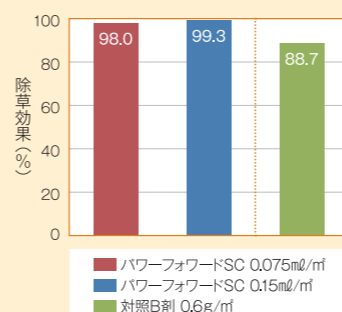
春と秋の適期防除で、雑草の発生を長期間抑制します。

春期処理での効果

メヒシバに対する効果

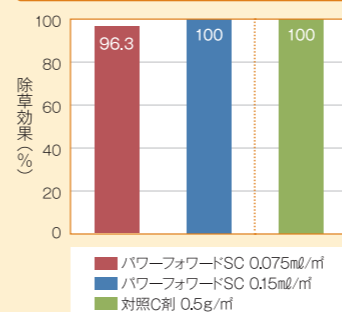


実施場所/（株）理研グリーン グリーン研究所
ノシバ圃場（フェアウェイ様管理区）
草種/ノシバ
対象雑草/メヒシバ（発生前）
散布方法/加圧式噴霧器にて散布 散布水量200mL/m²
散布日/2022年 3月 17日
調査日/2022年 7月 14日
調査方法/各区3反復の平均雑草発生本数より除草効果を算出。除草効果(%)=(1-処理区発生本数/無処理区発生本数(277.3本/m²))×100
試験結果/本剤はメヒシバに対して、各処理量において高い除草効果を示した。また、ノシバに対する影響は見られなかった。



実施場所/西日本グリーン研究所
草種/コウライシバ
対象雑草/メヒシバ（発生前）
散布方法/加圧式噴霧器にて散布 散布水量200mL/m²
散布日/1997年 3月 28日
調査日/1997年 7月 14日
調査方法/各区3反復の平均雑草発生本数より除草効果を算出。除草効果(%)=(1-処理区発生本数/無処理区発生本数(2592本/m²))×100
試験結果/本剤はいずれの処理量とも発生前処理においてメヒシバに対して高い除草効果を示し、比較薬剤よりも優れていた。また、コウライシバに対する影響は認められなかった。

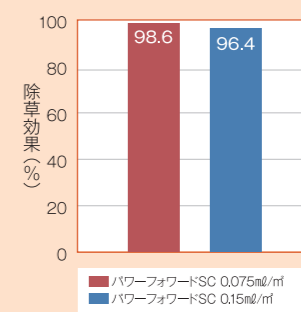
メヒシバ、アキメヒシバに対する効果



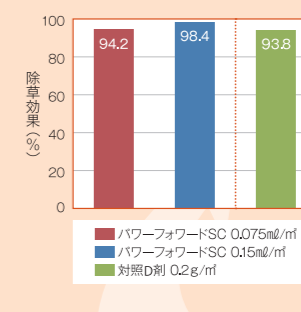
実施場所/東日本グリーン研究所
草種/コウライシバ
対象雑草/メヒシバ、アキメヒシバ（発生前）
散布方法/加圧式噴霧器にて散布 散布水量250mL/m²
散布日/1997年 4月 12日
調査日/1997年 7月 16日
調査方法/各区2反復の平均雑草発生本数より除草効果を算出。除草効果(%)=(1-処理区発生本数/無処理区発生本数(492本/m²、アキメヒシバ:307本/m²))×100
試験結果/本剤はメヒシバ、アキメヒシバに対して、発生前処理で極大の効果を示した。また、コウライシバに対する影響は認められなかった。

秋期処理での効果

スズメノカタビラに対する効果



実施場所/静岡県内ゴルフ場 練習場
草種/ノシバ
対象雑草/スズメノカタビラ（発生前）
散布方法/加圧噴霧器にて散布 散布水量200mL/m²
散布日/2021年 10月 22日
調査日/2022年 3月 16日
調査方法/各区3反復の平均雑草発生本数より除草効果を算出。除草効果(%)=(1-処理区発生本数/無処理区発生本数(46.3本/m²))×100
試験結果/本剤はスズメノカタビラに対して、発生前処理で高い除草効果を示した。また、ノシバに対する影響は認められなかった。



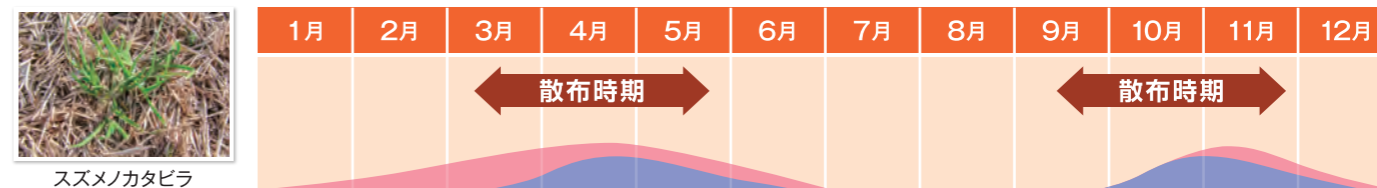
実施場所/（株）理研グリーン グリーン研究所
ノシバ圃場（フェアウェイ様管理区）
草種/ノシバ
対象雑草/スズメノカタビラ（発生前）
散布方法/加圧噴霧器にて散布 散布水量200mL/m²
散布日/2021年 9月 13日
調査日/2022年 3月 11日
調査方法/各区3反復の平均雑草発生本数より除草効果を算出。除草効果(%)=(1-処理区発生本数/無処理区発生本数(167本/m²))×100
試験結果/本剤はスズメノカタビラに対して、発生前処理で高い除草効果を示した。また、ノシバに対する影響は認められなかった。

上手な使用方法

● 薬剤散布適期とメヒシバの発生活消長 ※ 凡例/ 発芽時期 生育時期



● 薬剤散布適期とスズメノカタビラの発生活消長 ※ 凡例/ 発芽時期 生育時期



※発生活消長は地域によって異なります。

ポイント①

雑草発生前に散布してください

ポイント②

雑草発生初期以降は茎葉処理剤と組み合わせて散布してください